

- 幼稚園、小学校、高校、大学、NPOで教材を使用した事例を紹介します。
- 教材活用の際の参考にしてください。

●幼稚園

学校名	竹町幼稚園（東京都台東区）
対象とした学年	年中組、年長組
教科名	登園後の時間
授業時間	90分
実施した際の生徒数	43名

【教材を活用した日時・場所など】

2010年10月15日 9:10～10:40

台東区立竹町幼稚園

同園の設立80周年に際し、国際環境NGO FoE Japanが国内の人工林の間伐促進のために推進する『森のプレゼント』*による間伐材ベンチの寄贈を受け入れることとなり、寄贈イベントの中で本教材を使い、世界の森林について学ぶ講義を実施した。

※ 森のプレゼントとは

森のプレゼントはみんなの寄付金を集めて、管理がなされずに不健全な状態に陥った国内の人工林で間伐作業を行い、間伐材をみんなで使えるベンチにして、公園や幼稚園、学校などに寄贈するプロジェクトです。ベンチを一緒に組み立てて、大切に使うことで、みんなが日本の森の現状について知り、考えるきっかけとなります。

【講義の形式】

年中組、年長組各20名の児童と、その保護者計80名を対象とした。

年中組をAチーム、年長組をBチームとし、間伐材ベンチの組み立てと上映、講義を交互に行なった。（下記参照）

10/13	年中組	年長組	先生方へのお願い
9:10	ご挨拶（5分）		園長先生ご挨拶
9:15～ 9:55	ベンチ組み立て【説明、作業】 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ FoE Japan の紹介(5分) ・ DVD観賞『人と木』(20分) ・ 木のシール作り(10分) ・ 世界の森林のお話(5分) 	各チームの誘導 子どものシール作りのお手伝い

9:55～ 10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・ FoE Japan の紹介(5 分) ・ DVD 観賞『人と木』(20 分) ・ 木のシール作り(10 分) ・ 世界の森林のお話(5 分) 	ベンチ組み立て【説明、作業】 (40 分)	各チームの誘導、 子どものシール作りの お手伝い
10:35	閉会の挨拶(5 分)		園長先生ご挨拶

【視聴の様態】

プロジェクターで壁面に大きく投影。前に運動用マットを敷き、児童が座り、後ろに椅子を並べて保護者が着席して視聴した。



上映中、幼稚園の教頭先生がアニメーションのところで即興でナレーションを入れたことで、園児たちがより注視することが出来た。概ね下記の通り。

「あっ種がおちて芽が出てきたよ？大きなきになったね。」

「小さな動物は大きな動物のエサになり、大きな動物も自分より大きな動物のエサになりました。」

「強いライオンさんもいつかは倒れて、鳥たちのエサになって土に返っていきます。」

「昔の人たちは家を建てるために、最初、担いで木を運んでいましたが、みんなで引っ張って、動物に引かせて木を運ぶようになりました。」

「最初は斧でコンコン伐っていましたが、ノコギリになり、電動ノコギリで木を切るようになりました。」

「たくさん伐られた丸太は、トラックに載せられて、船に運ばれていきます。」

先生のアナウンスにのって、「鳥さんがでてきた」、「アリさんがでてきた」など、子ども達が積極的に映像から何かを読み取ろうとする姿勢がみられた。

アニメーション以外のところは園児たちには難しい内容だったが、保護者に対しては考え

てもらえる内容だったと思う。

上映後、講師より情報の落とし込みを行なった

<園児達に対して>

- ・ どんな動物さんが出てきましたか？（キツネ、ライオン、鳥、アリなど）※元気よく手を挙げて
 - ここに出てきた、たくさん動物の仲間達は山や森で仲良く暮らしています。僕達人間の勝手に、森を壊していくと、たくさん仲間達が困ってしまいます。
- ・ 身の回りに木で出来たものは何があるか？（家、机など）※元気よく手を挙げて
 - お寺や神社など、みんなの、おじいさんのそのまたおじいさんよりも昔から、私たちは木を使って、森に感謝しながら生活してきました。また、山や森は、私たちに木をプレゼントしてくれるだけでなく、たくさん降った雨を一度ためて、ちょっとずつ川に流して、下流に住む私たちに水を届けてくれます。私たちが木や森がなくなると、とても困ってしまうのです。

<保護者に対して>

- ・ 身の回りにある木材製品、どこの森からやってきた木か、どこで作られたものか、わかるものはありますか？（分からない）
 - 残念ながら、今も違法伐採の恐れのある木材が日本に輸入されてきています。私たち消費者が、モノの原産地を確かめて買う、知ろうとすることで、映像に出てきたような、森林の減少を防ぐことができます。
- ・ どういう木を選んで買えばいいでしょうか？
 - お子さん達が、もうすぐ小学校にあがりますね。机や本棚など、色々なものを購入されると思います。これから、お子さん達が長い間手に触れ、生活の一部として使うものです。産地が明確に分かる木製品、極力近くの森で取れた木製品など、森を元気にする木製品を選んであげてください。そして、それらを大切に使うようにしてください。お店に行ったときには、店員さんに、是非「どこで取れた木材ですか？」と聞くようにしてください。買う側が変われば、売る側も変わります。

●小学校（中学年・高学年）

作成者	茨城大学大学院研究生
対象とした学年	小学校 中学年及び高学年

＜小学生向け 森林の役割と森林と人とのつながり＞

【考え方】

今から10年以上前に、水戸市の大学附属小学校3年生の「心の総合学習」『千波で遊ぶ』の学習の延長で行った親子学習会「千波湖の宝ものを探そう」で選ばれたのが「きれいな水」でした。そこで、「おいしい水を飲みに行こう」というテーマで、千波湖の上の笠原水源（江戸時代水戸の城下に送られた上水道の水源）に行き、茨城県森林アドバイザーの話聞いて、水と森林の学習をした後に、子ども達が森や土の大切さに気づき、環境保護（土づくり、水の浄化、ゴミ問題等）に一気に流れていったこと。

5年生の授業では、やはり、森林アドバイザーの話校内の森（江戸時代の二の丸の中にあった古い木が多く残っている）で聞き、「落ち葉や古い朽ちた木がアリや小さな虫のすみかやえさになっていること」や「どんなものも次の命をつくるために役だっていること」を学び、森を守ろうという活動（木を育てる、木を守ろう）につながっていきました。

小学校の中学年生（3・4年）の抽象思考の発達段階を考えると、地球規模の環境問題から入るのではなく、身近な生活や自然環境から入るのが適している。また、高学年生（5・6年）は人との関係をつくることや自分の今まで知らない遠い世界に興味を持つので、自然に地球環境問題に目を向けていくことができると考えます。

【中学年向け 森林のはたらきを知ろう】

（目的）自分と森のつながりを感じ取ったり、理解したりする。

（学習の流れ）

1 マイ ツリーを見つけよう

（森や校庭で自分の木を見つけ、名前をつけて1年間観察する。）

2 森や校庭で宝物を見つけよう

（各自、葉っぱや枝、木の根などを探して、グループで見つけた宝物とその理由を発表してグループの代表を決める→学級の代表を→学年の代表を）

*この中で命の連鎖に関係した宝物を見つけていくことができます。また、森の中の営みを理解することができます。

3 ビデオ1章（8分）視聴する。

（感じたことを自由に発表する）

*しいて弱肉強食をテーマにせず、自然の中では死も役にたつ、自然界にあるものすべてが、次の命を育てるのに役に立っているという視点で、身近な自然からより広げて大きな自然界の営みという視点で捉えてほうがよいと思います。

4 自分の回りの木や木製品を探そう

（「ツリーマップをつくろう」や「木から作られたものを探そう」などの活動）

*図鑑で木の種類を調べて、家や学校や近くの公園、森などのマップを作ったり、個人やグループ・学級で木製品の表を作ったりする。）

5 木と私たちの生活のつながりを調べよう

（昔の人たちは木をどのように使っていたのか、ビデオから分かったことや家の人に聞いて分かったことをまとめる）

*大昔から、木や森が私たちの生活に役だっていることに気づくことができるようにする。

6 私たちの生活と木や森のつながりをまとめてみよう

7 自分が木を守るためにできることを考えてみよう

【高学年向け 現在の森林問題の解決策を見つけよう】

1 森林の減少は何故起こるのだろうか？

① 第1章④、第2章①を視聴する

② 自由にブレインストーミング的に発表し、グループにまとめていく。

- ・森林の利用の仕方（農地転用、燃料伐採、焼畑農業）
- ・自然災害（森林火災）
- ・違法伐採

2 森林が減少することによって、何が起こるのだろうか？

① 視聴したビデオ等を参考に自由に発表する（自然災害や保水、土砂流出、薬草や生物多様性や地球温暖化への影響、住んでいる人の生活や伝統文化への影響など）

② 自分が興味を持った課題について、さらに調べ、発表する。

3 今、私たちができることは何だろうか？

① 第3章を視聴して、自由に発表し、グループにまとめる。

- ・国・・・グリーン購入法
- ・国際機関・・・
- ・民間の企業やNGO、NPOなど

② 自分ができることをまとめて発表しよう

- ・モノを大切に使う。
- ・木を増やしたり、植林の募金活動に参加したりする
- ・森林認証制度で認められたモノを購入する。
- ・木の生産者や生産地、どう運ばれるかを知る。
- ・木の生産地や生産農家を調べて購入する。
- ・違法木材を買わない。
- ・再利用、リサイクルした製品を購入する。

③ まとめをする

- ・選んで購入することは、森林減少を止めること。

（私たちが木の生産者や生産地、リサイクル製品を選んで、木製品を購入することは、木の生産農家や、木工製品を作る人や売る人を選ぶことで、持続可能な森林を育て守ることである。）

● 高校

学校名	東京都立川市 T 高校
対象とした学年	高校 1 年、高校 2 年
教科名	理科総合 B
授業時間	50 分 × 2 回
実施した際の生徒数	約 20 名

机の配置：普段の講義形式のまま（1 個ずつの机）

教材にある高校用の授業進め方活用シートの通りに実施。

ただ、DVD を見せる 1 週間前の授業で、あらかじめ森林の重要性や、森林製品認証マーク等を説明し、宿題として、身近な製品についている、認証マークの製品の持参や、それに関する新聞記事や説明書、本などの情報をまとめる課題を出しました。

DVD を見せる際には途中で説明は行わず、終わってからそれぞれの章に取組ました。

各章から得た情報は勿論、その感想や展望を書かせ、同時に森林問題に関する新聞記事を読ませた上で、感想文を提出させました。白黒の映像でもよく理解していました。

●大学①

学校名	横浜国立大学経営学部
対象とした学年	2～4 年
教科名	生態会計論Ⅱ
授業時間	90 分 × 1 回（1 月 26 日（水）の講義で利用）
実施した際の生徒数	80 名

通常の講義の中でパワーポイントの一部として使用

○机の配置（通常の大講義室のまま）

○当日の講義のテーマ「森林資源と会計」

持続可能な森林経営を行っていくために必要なマネジメントと会計の仕組みについて講義。講義の内容は以下の通り

- 1 森林の衰退と森林の荒廃
- 2 持続可能な森林管理と法正林の概念
- 3 国有林野事業における立木資産の計理
- 4 造林事業の原価計算と立木原価の費用計算
- 5 林業の再生と会計の役割

○DVD の教材の使用方法

講義は、3、4、5 のマネジメントや 会計を中心としたものであるため、講義内容 1、2 で、森林の現状と機能、森林認証制度についての理解を深めるために DVD 教材は以下の部分をパワーポイント資料と一緒に使用しました。特にディスカッション等はありません。

- ・世界の森林の現状
- ・世界の森林と日本の木材利用
- ・日本政府の取組
- ・合法性・持続可能性が証明された木材・紙製品

●大学②

学校名	九州大学（福岡県福岡市）
対象とした学年	農学部地球森林科学コース等 学部 2 年生
教科名	環境社会経済学
授業時間	90分
実施した際の生徒数	65名

机の配置：普段の講義形式のまま

熱帯林保全と森林認証の問題に関する講義の途中で、熱帯林減少・劣化の現状を説明する参考資料としてパート2から見せた。口で説明するだけでは、森林火災の実態など伝わらないので、学生にも好評だった。

●NPO

企業名・団体名など	特定非営利活動法人グリーンシティ福岡
セミナーなどの呼称・主旨	内部研修
実施時間	60分
実施した際の参加人数	3名

グループ分けした場合、1グループの人数	3人
<p>机の配置（例：講義形式のまま、グループごとに丸くなる等）</p> <p>当団体のスタッフ向け内部研修として、映像の視聴とディスカッションを実施。 打合せテーブルに着席し、PCの画面上で再生しながら適宜ディスカッション。 映像は全編にわたって再生を行った。</p> <p>主なやり取りは以下の通り。</p> <p>世界の森林の実態に関する理解度について、確認のための質疑応答 環境教育の教材としての本DVDの使い方や対象年齢についての意見交換</p> <p>今後も、機会があれば紹介 or 活用したい。</p>	